



許してはならない”ふくいち”の風化

ドイツのメルケル首相が三・一一を前に訪日したが、これに先立ち公式サイトで「日本もドイツのように脱原発すべきだ」とのメッセージを発した。さつそくネットでは賛否こもこも、激しい議論が展開されている▼ご承知のようにメルケル政権は、福島第一原発事故を受けて、再生可能エネルギーを拡充する政策への転換によって、二二年までに原発を段階的に停止することを決定している。物理学者として原発の安全性には確信を持っていたが、脱原発は「極めて高度な科学技術を持つ国で福島のような事故が起きたのを目の当たりにし、(原発には) 予想できないリスクが生じることを認識した」うえでの、「長年原子力の平和利用を支持してきた人間による、政治的な判断」であったと述べている▼一方、国内での福島第一原発事故の風化は著しい。「(汚染水について) 状況はコントロールされており、東京に決してダメージは与えない」との安倍総理のメッセージが決め手となつて東京オリンピック開催は決定し、ブームに沸き立つ。また昨年秋の福島県知事選でも、有力候補が県外の原発再稼働問題について明言を避けるなど、脱原発は争点にはならなかった。そしてまたぞろ東電は汚染水流出を把握しながら公表していなかったことが判明した▼「福島事故の経験から言えることは、安全性が最も重要だ」とのメルケル発言はまっとうであり、安倍政権による原発再稼働や原発輸出の動きこそがクレイジーだ。未来世代への責任を果たしていくことが基本でなければならない。

(土着菌)